

科目名	専門演習Ⅱ SeminarⅡ							
科目担当者	青木 誠弘 AOKI Nobuhiro							
単位数	4	配当年次	3年	授業形態	演習	開講学期	通年	
履修学部・学科 [区分]	法学部・法律学科 [専門教育科目 演習]				ディプロマポリシーとの関連	(3)(4)		
授業の概要	<p>学問に限らず、物事を本当に理解したと言えるためには、人から教えられたことを理解するだけでは足りない。そのような受け身的な理解だけではなく、自ら課題を発見し、調べ、そこで得られた知見を他者に伝達するという積極的な行動をとってこそ、何かを理解したと言えるのである。</p> <p>そこで、専門演習Ⅰから専門演習Ⅲでは、主に憲法に関する判例を題材に、そのような積極的な学習を行ってゆく。</p> <p>専門演習Ⅱでは、その第2段階として、学生による研究発表を行う。</p>							
授業の到達目標	<p>①各自が、それぞれの課題に応じた資料を収集し、理解し、発表できるようになること。</p> <p>②他者の発表に対して意見を持ち、議論できるようになること。</p>							
授業計画・内容	1	初回打合せ	16	後期打合せ	2	研究テーマの選定と方針決定	17	前期の振り返りと今後の注意
	3	研究発表に関するイントロダクション	18	研究準備	4	施設見学	19	施設見学
	5	研究発表1人目① 事前学習	20	研究発表6人目① 事前学習	6	研究発表1人目② 発表	21	研究発表6人目② 発表
	7	研究発表2人目① 事前学習	22	研究発表7人目① 事前学習	8	研究発表2人目② 発表	23	研究発表7人目② 発表
	9	研究発表3人目① 事前学習	24	研究発表8人目① 事前学習	10	研究発表3人目② 発表	25	研究発表8人目② 発表
	11	研究発表4人目① 事前学習	26	研究発表9人目① 事前学習	12	研究発表4人目② 発表	27	研究発表9人目② 発表
	13	研究発表5人目① 事前学習	28	研究発表10人目① 事前学習	14	研究発表5人目② 発表	29	研究発表10人目② 発表
	15	前記のまとめ	30	総括				
授業外学修 (事前学修)	・発表前に、資料の収集、報告資料の作成等、準備をしておくこと（年間60時間程度）。							
授業外学修 (事後学修)	・他者の発表を聞いた後、その発表に現れていた問題点に対して問題意識を持ち、自身の見解を組み立てるまで考察すること（年間60時間程度）。							
成績評価方法・ 評価比率・到達 目標との対応	成績評価方法			評価比率	到達目標との対応			
	・自身の研究発表の成果 ・他者の発表における議論への参加			50% 50%	① ②			
成績評価基準	<p>秀：（評点90点以上）到達目標を極めて高い水準で達成している場合</p> <p>優：（評点80点～89点）到達目標を高い水準で達成している場合</p> <p>良：（評点70点～79点）到達目標を一定の水準で達成している場合</p> <p>可：（評点60点～69点）到達目標を最低限の水準で達成している場合</p> <p>不可：（評点60点未満）到達目標に達していない場合</p>							
教科書	指定しない。必要な資料は適宜指導する。							
参考文献	<p>・長谷部恭男・石川健治・宍戸常寿編『憲法判例百選Ⅰ』（第7版）有斐閣</p> <p>・長谷部恭男・石川健治・宍戸常寿編『憲法判例百選Ⅱ』（第7版）有斐閣</p>							
その他	学生の理解の度合いや最新のニュースなどを反映して予定が変わることがある。							